

---

## 第 7 期事業年度 事業報告書

(自 平成 29 年 6 月 1 日 至 平成 30 年 5 月 31 日)

---

## 目次

### I 第7期事業年度事業の報告

## I 第7期事業年度の報告

平成30年7月30日 事務局

### 1. 団体の概要

#### (1) 法人の目的

東北太平洋沖地震により、激甚な被害を受けた岩手県大槌町において、町民や専門家の幅広い知恵と行動力を結集し、まちづくりに関する事業を行い、観光業、商工業、農水産業の発展と、それらの担い手である大槌町民の生活再建に寄与すること。

#### (2) 事業内容

[法人定款より]

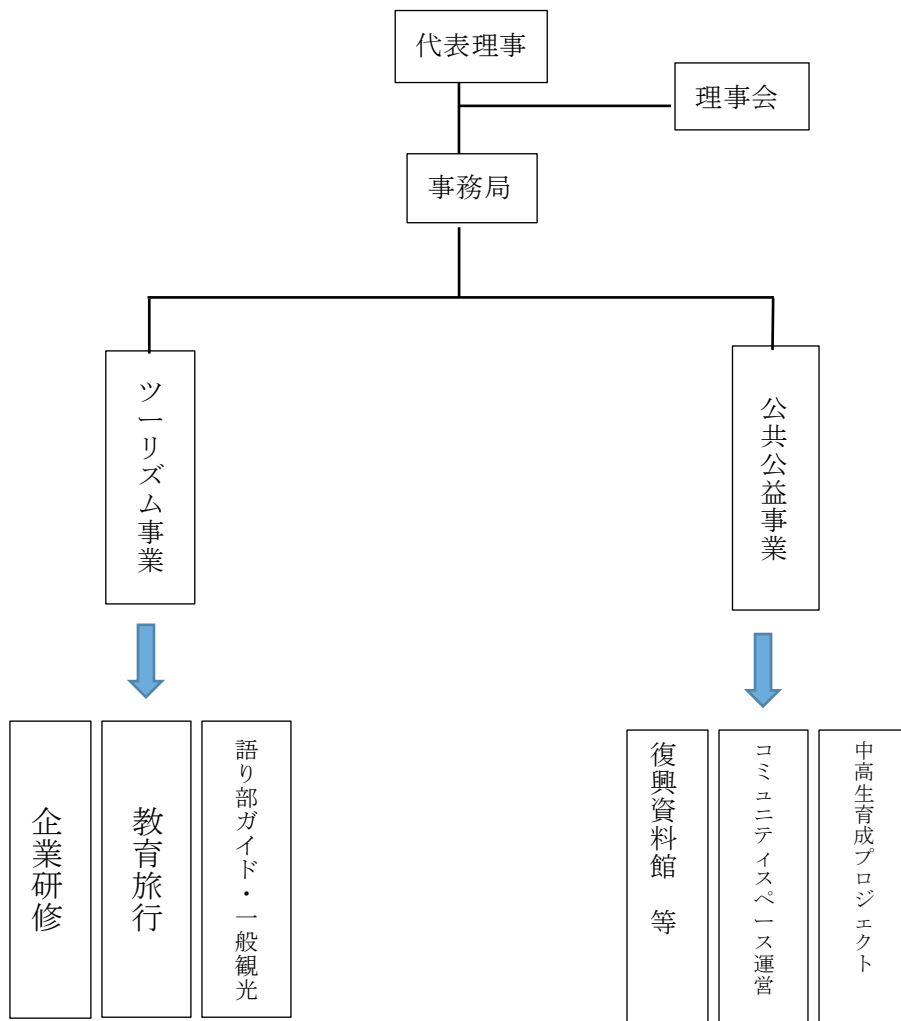
- 住民参加型復興まちづくりに関する、調査研究やその補助事業
- 効率的な町づくりの運営に資するための委託事業
- 津波被害前後の大槌の歴史や資源、景観等に関する情報の収集・蓄積および展示、インタープリテーションを含めたタウンミュージアム事業
- 災害ボランティアや視察研修等の誘致と、そのアメニティ向上
- 大槌町民と国民、行政およびその外郭団体とのネットワークの促進
- ご当地グルメや観光資源の発掘・開発、イベントの実施など、地域振興に資する事業
- 飲食（ご当地グルメ）の提供
- 前各号に掲げる事業に附帯または関連する事業

## 2. 第7期事業年度の取り組みについて

### (1) 具体的な取り組みの報告

今年度も、昨年度までの体制を概ね継承して①公共公益的な事業②観光振興に資する事業という2つの事業を展開した。

[事業執行体制]



## 1. ツーリズム事業

### 「第7期ツーリズム事業受入実績表(H29.6.1～H30.5.31)」

受け入れ総数		<<内訳>>					
人数	団体数	企業研修		教育旅行		海外	
		人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数
4,350	264	684	45	1,528	43	146	19

#### ①企業研修

企業研修の受入実績は、昨年度より横ばいとなっている。企業研修事業におけるリピーター率も引き続き7割以上をキープしている。

このことは、旅行会社を通じた企業研修や県南振興局との連携による誘致活動が成果を収めたためと推察され、今後も県南振興局に加えて沿岸広域振興局や近隣市町村との連携を深めることで堅実な誘致活動を進めていきたいと考える。

また、今後、独自で企業開拓も進めていく必要もある。そのために、第8期事業年度は、新たに人材育成会社とのタックを組み、再度団体の持つコンテンツの周知と高度化を図る。また、第8期事業年度は、Yahoo!基金の助成金を受け、新コンテンツの開拓にも着手していく。

#### ②教育旅行

教育旅行受入数は微増した。新規の問い合わせが増えたり、震災から月日が経ったからこそ、安心して生徒を連れてくることができると考えている学校もあるようだ。引き続き、首都圏の私立系の学校からの訪問が主流であり、今後は、岩手県内の教育旅行先として沿岸を視野に入れてもらうことが教育上の面でも必要だと感じている。そのため、岩手県や県内の広域 DMC 機構と連携し、県外のみならず県内からの教育旅行を充実させる潮流を作っていく。

#### ③語り部ガイド・一般観光

語り部ガイドの受入人数は引き続き減少している。しかし、受け入れ人数は前年度比較で1000人以上の減少だったのに比べ、受け入れ件数は、30件の減少のみである。これは、大きなツアー団体の件数が減ったため人数は大きく減っているが、逆に個人旅行でこられるお客さんが増えているからである。今年度より、旅行会社の運営するネット販売のサイト計3件に掲載をしてもらうとともに、団体のHP上からも直接申し込みをできるフォーマットを作ったことにも関係している。語り部ガイド事業は語り部を担う町民にとって、自身の経験を伝承することで気持ちを整理することにもつながり、また多くの人たちとの交流を「生きがい」と感じているように見受けられることから、個人の

お客さんが増えたことは、お客さんとの密なつながりも増えていることとなり、ガイド本人たちからも喜ばれている。今後も、あらたな町民ガイドさんを開拓しつつ、可能な限り継続していく。

## 2. 公共公益事業

### ①中高生育成事業

中高生の育成事業としては、例年どおり『高校生起業体験』を放課後 NPO アフタースクールとともに実施した。この事業は、5 回目となり町内事業者にも大槌高校にも認知されるようになってきており、本年度は今までの最多の大槌高校生 25 名が参加した。

また、本取り組みを通じて知り合いとなった高校生たちは、学習旅行で訪れた都市圏の高校生との交流事業にも参加してもらうなど、起業体験に留まらない形で様々な経験を積んでもらうことができたと思われる。

また、今年度より大槌町姉妹都市の米国カリフォルニア州フォートブラッグ市の交流団受け入れ事業を町から受託しており、その受け入れについても中高生有志を中心に企画運営を行なった。海外に興味がある中高生は多く、また英語を使いたいと感じている生徒も多数いる。そのため、中高生ごとにグループを作ってもらい、担当する企画（ウエルカムパーティー、BBQ 懇親会、さよならパーティーなど）ごとに、イベントの内容や進行などを考えていってもらった。これにより、中高生生徒の主体性を育む機会になったと感じる。

### ②コミュニティスペース運営、復興資料館運営

復興事業におけるハード整備が着実に進み、各地域に公民館や自治会館などが整備されてきたことから当団体コミュニティスペースの利用者は殆どなくなり、近隣住民が集う場所としての役割はほぼ終えたものと思われる。一方、スポーツや趣味を通じた若手サークルにとっては、当団体スペースは使い勝手のいい場所として認知されており、この場所を起点とした新しいコミュニティが形成されていく可能性が秘められている。よって、第 8 期事業年度中に施工完了よていの新事務所にも、そのような機能を兼ね備えたスペースを作る予定で計画している。

復興資料館は、現在の仮設事務所の取り壊し作業開始のため 11 月に閉鎖した。保存していた震災前の大槌町の模型や展示物は、町の中心市街地に震災伝承施設が 6 月にオープン予定であることから全てそちらへ移管し、団体としての復興資料館運営業務は終了した。（大槌町文化交流センターは、2018 年 6 月にオープンしている）